

令和4年度 広島県まち・ひと・しごと創生総合戦略外部評価会議
(令和4年10月28日開催)

項目	主 な 意 見
女性の活躍促進について	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広島県における女性の管理職比率は、全国平均に比べてかなり低い。これは、人口の社会減とも関係する課題と考える。女性の活躍促進について、ロールモデルとなる企業は県内にも存在しており、そうした企業の情報発信を進めることで、大都市に出ていかず、県内に留まろうという方も増えるのではないか。 ○ 女性の活躍促進を掲げるのであれば、性別を問わず、休暇を取得しやすい環境を整備することが必要と考える。現状、企業規模により取組に差があるので、特に中小企業等において、今後どのように環境整備を進めていくかという部分が重要ではないか。 ○ 離職した女性の再就職を考える際は、離職期間の長さによる再就職の困難さや、仕事と暮らしのバランス、自分の得た学歴が十分に生かせないオーバークオリティケーションの問題なども踏まえて考える必要がある。 ○ 適切なパートナーシップを描くためには、男女ともに働いて、男女ともに子育てをするといった価値観の醸成が必要である。
働き方改革の促進について	<ul style="list-style-type: none"> ○ キャリア教育が多く的高校・大学で行われるようになってきており、学生は、労働者の権利や労働環境に関する全国標準の知識を備えている。県内企業へ就職した場合に、学んできた知識と、実際の労働環境のギャップを感じてしまうと、都市圏への転出を考えることに繋がる。 ○ 働き方改革、働き手の育休や雇用延長などは制度だけが先行するのではなく、実態が伴うように、企業を含めた現場の声を聞きながら進める必要がある。
デジタル活用について	<ul style="list-style-type: none"> ○ これからの時代は、ITやデジタルを活用が教育格差や経済格差を生むことになってくる。教育現場において、児童生徒がデジタルを活用できるようにしていくことに加え、社会インフラとしてのデジタル活用がさらに進んでいくよう、社会人に対するデジタル教育も進めてほしい。
人口について	<ul style="list-style-type: none"> ○ 65歳以上の人口のうち、戦後生まれの高齢者数が戦前生まれの高齢者数を追い抜いてきた。時代とともに、消費や行政ニーズも大きく変容しているため、政策対応等も変えていく必要がある。
スマート農業について	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中山間地域の基幹産業である農業の活性化に向けては、地域にあったスマート農業の普及が必要となる。特に、実証から実装段階へ進んでいく上では、産学官の連携が非常に重要である。また、技術があっても活用されなければ意味がないので、いかに地域に普及させていくかも課題であり、その点の工夫も必要であると考えられる。 ○ 農産物の肥料農薬等や資材の高騰により利益が薄くなっており、スマート農業に取り組もうとしても、初期投資ができない状況である。また、高齢者の中にはITがよくわからないという方も多く、使えば便利ということをいかに理解してもらうかが重要だと考える。

項目	主 な 意 見
観光について	○ 旅行客にとって、歓迎されたという気持ちは再訪問に繋がる。「おもてなし」の心を県民が持つことは重要であり、今後も発信し続ける必要がある。
平和について	○ 立ち上げたプラットフォームに参加する団体数を増やすことも重要であるが、参加している団体が活動に積極的に関わることができる仕組みを構築することも重要である。
創業支援について	○ スタートアップ企業を作っていく上では、資金調達が一番の課題であり、行政においては、そうした仕組みや環境整備を支援していただきたい。
カーボンニュートラルについて	○ 企業にとっては、生産性が最優先となるのはやむを得ない中で、まずは、自分たちがどういった環境負荷を与えているかを知っていただくことが大事だと考える。特に、中小企業は知る機会が少ないと思われるので、行政はその情報を発信していただき、そのうえで、どの部分を支援していくのがよいのか、企業と一緒に考えていくことが必要であると考えます。
スポーツを活用した地域活性化について	○ 市町がスポーツを通じた健康づくりや地域活性化に取り組む中で、学校部活動の地域移行という動きも出ている。教育現場との連携も視野に入れながら、取組を進めていただきたい。